

指定管理者制度導入施設 モニタリング結果報告書

1 公の施設の概要について

施設の概要	名称	希望の家・ひばり分室
	所在地	(希望の家) 五日市374番地5、(ひばり分室) 平沢175番地4
	所管課	健康福祉部障がい者支援課障がい者相談係(内線) 2619
指定管理者	名称	あきる野市社会福祉協議会
	所在地	あきる野市平沢175番地4
	業務内容	市内に住所を有する就業困難な心身障がい者に対し、作業訓練や生活指導を行い、自立した日常生活を目指す。 ○主な事業は次のとおり 絵画教室、リトミック教室、アルミ缶回収、バザー出店(以上希望の家)生活訓練、歩行訓練、体操教室、音楽教室(以上ひばり分室)
ホームページURL		http://www.akiruno-shakyo.or.jp/page/sisetu.html
指定期間		平成25年4月1日～平成30年3月31日

2 施設の利用状況等について

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
登録者数(人)	318	312	330	330	322
開館等日数(日)	240	244	243	243	243
延べ通所者数(人)	5,568	5,776	5,759	5,514	5,390
平均(1日当たり)通所者数(人)	23.20	23.67	23.70	22.69	22.18

※登録者数は、各月の登録者数を合計しています。

3 施設の収支状況について

(単位：円)

項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
収入	指定管理料	50,569,000	11,068,000	11,068,000	11,068,000	11,068,000
	自立支援費等収入	—	50,463,247	50,957,426	47,711,383	49,440,706
	その他の収入	861,467	12,060,199	9,475,168	12,296,678	17,053,742
	計	51,430,467	73,591,446	71,500,594	71,076,061	77,562,448
支出	人件費	44,843,640	49,288,539	46,582,223	45,522,747	45,658,034
	維持管理経費	6,032,779	8,995,982	9,596,560	8,457,079	9,436,397
	その他の支出	144,000	9,990,173	3,656,768	855,145	4,575,467
	計	51,020,419	68,274,694	59,835,551	54,834,971	59,669,898
収支(収入－支出)		410,048	5,316,752	11,665,043	16,241,090	17,892,550

※1 平成24年度までは、単年度収支で表記しています。

※2 平成25年度以降は、前年度繰越金を「その他収入」に含み表記しています。

※3 平成25年度の支出中の維持管理経費及びその他の支出について、誤りがあったため、ホームページ上に公開したものを修正しています。

※4 合計支出額については、他の会計(地域福祉活動推進事業経費会計)において、希望の家・ひばり分室運営事業に対して支出した経費(人件費、委託料等事務費)があるため、指定管理期間の満了となる平成29年度末に支出額を算入した上で5年間の精算を行います。

4 施設の利用促進や市民サービスの向上の取組

利用者アンケート（実施時期や具体的な方法など）
保護者会を定期的に関き、サービスに対する評価を確認している。必要に応じ個別の面談、毎日の連絡帳により、要望を把握している。
利用者から寄せられた意見・苦情及び対応状況
職員の対応、送迎サービス等満足しているとの意見が多く、保護者とは高い信頼関係を築けている。
利用促進のための独自事業、市民サービスの向上の取組など（取組の内容、効果など）
経費の削減を行いつつ、安全面への配慮及び利用者へのサービスの維持に努めている。利用者全員に個別支援計画を作成し、計画に基づいたきめ細かな支援を行う等、サービスの向上にも取り組んでいる。地域団体との交流、事業へのボランティア参加の推進、学生の実習の受入れ等を実施している。地域の生徒に障がい者理解への学習の機会を与え、受け入れ先が不足する実習生を受け入れることにより、地域福祉を担う次世代の育成に役立っている。

5 経費削減のための取組

具体的な取組内容
送迎車の運転は、極力最短コースの設定と法定速度で運行し燃料消費量の節減を心掛けた。また、施設では、利用者がいない時間帯は、極力照明を落とし節電を実施した。

6 指定管理者による総合評価

利用状況、収支状況などを踏まえて、業務改善につなげていくための総括・自己評価
地域の方々や多くのボランティアの協力を得て、地域の施設として様々な活動を実践することにより、利用者がより多くの経験を得ることができるよう努めるとともに、個々の利用者に対応した個別支援計画を実践することにより、それぞれの利用者の状況に合ったサービスの提供を行った。 次年度についても、利用者に合った個別対応を行うとともに、保護者との連絡を密にすることで、より高い信頼・評価を得ることができるよう質の向上を図っていく。

7 所管課による総合評価（太枠にS～Bの3段階で評価を記入）

市民サービスの向上	
定期的に保護者会を開き、利用者及び保護者から見た、サービスに対する評価を確認している。また、必要に応じ個別の面談や毎日の連絡帳により、要望等を把握している。	
経費削減の取組	
職員の対応、送迎サービス等満足しているとの意見が多く、保護者とは厚い信頼関係を築けている。	
業務改善につなげていくための指定管理者の管理に係る総括的な評価	
常日頃より、安全面への配慮及び利用者へのサービスの維持に努めている。利用者全員に個別支援計画を作成し、計画に基づいたきめ細かな支援を行う等、サービスの向上にも取り組んでいる。 欠席者の影響ではあるが、年間の通所者が82.2%と、今後の利用者の増加に向けた取組など課題の克服に向けた事業実施をお願いする。	
総合評価	A

※評価基準

- S：モニタリングチェックシートにおいて、全ての項目が「適正」であり、協定書、事業計画書等よりも優れた指定管理業務を行っている。
- A：モニタリングチェックシートにおいて、全ての項目が「適正」であり、協定書、事業計画書等に沿った指定管理業務を行っている。
- B：モニタリングチェックシートにおいて「要改善」の項目があり、協定書、事業計画書等で定める指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の必要がある。